

# 学際的ワークショップ

## 『精神分析の知のリンクにむけて』

### —第二回『素人分析の問題』を巡って—

精神分析についての臨床的な知と人文知の交流をはかる「学際的ワークショップ」の第二回では、このセミナーの趣旨と直接関連のあるテーマを取り上げます。

1925年、非医師の分析家テオドール・ライクが「もぐり医療」の疑いで、ウィーン市当局に起訴されるという事件を契機に、フロイトは『素人分析の問題』という論考を書き上げました。この論考は、分析家になるための教育、分析家の資格認定の問題、人文諸学との関係など、今日においてもアクトチュアルな豊富な内容が盛り込まれています。その中で、フロイトは「誰が分析を行うか」という問いには、「一定の研修を受けてその資格を得ていないなら、誰であろうと分析を行ってはいけない」と明言する一方、精神分析の本質については、それは治療という限定された目的に留まるものではなく、「治療として精神分析を用いるのは、精神分析という広大な学問の一つの応用に過ぎない」と述べています。

哲学者の國分功一郎氏は、この論考が、非臨床家が精神分析に関わるさいの独自の「倫理」を提示していることを指摘しています（岩波版『フロイト全集』月報16）。本ワークショップでは、國分功一郎氏をお招きし、現場の臨床家との対話を試みようと思います。臨床家の側からは、本ワークショップのコーディネーターの一人である藤山直樹と非医師の臨床家である平井正三氏に、『素人分析の問題』に関する各々の考えを話していただきます。指定討論は精神分析思想に精通した原和之氏と本ワークショップの企画者の十川幸司が担当します。

日 時：10月1日（日）13：00～17：00

場 所：TKP 市ヶ谷カンファレンスセンター

参加対象：精神分析に関心をもつ方はどなたでも参加できます。

発表者：國分功一郎（高崎経済大学）

：藤山直樹（個人開業・上智大学）

：平井正三（御池心理療法センター）

司 会：十川幸司（十川精神分析オフィス）

藤山直樹

討 論：原和之（東京大学大学院総合文化研究科）

：十川幸司

参加費：5000円（学生は3000円）

定 員：100名

申し込み方法：2017年9月22日（金）までに小寺記念精神分析研究財団事務局に **e-mail**

**でお申し込み下さい**([kodera.kt@nifty.com](mailto:kodera.kt@nifty.com))。申し込み用紙はございません。

件名は「学際的ワークショップ申し込み」とし、メール本文に、氏名、住所、ご所属とご身分（学生、教員、会社員など）お書き下さい。返信メールにて、お振込みのご案内をさせていただきます。（申込書はございません。メールでのお申し込みをお受けいたします。）

主催 小寺記念精神分析研究財団